

・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、経済学研究科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「国際性」を学生に身につけさせるため、経済史、経済思想、社会政策等の歴史思想系科目、東南アジア経済論、ヨーロッパ経済論等の地域分析系科目及びその他必要と認める科目を開設する。

2. 深い学識を涵養し、高度な「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。

・経済学の高度な「専門性」を体系的に身につけるために、基礎的な知識・能力の習得をめざすマイクロ経済学 IA、マイクロ経済学 IB、マクロ経済学 IA、マクロ経済学 IB 等の必修科目を履修した上で一層高度な専門科目の履修へと進み、さらに修士論文を作成する段階的カリキュラムとする。

・高度に論理的・数理的に思考する能力を身につけるためにマイクロ経済学 II、マクロ経済学 II、経済数学等の基礎理論系科目および計量経済学、統計推理論、産業連関分析等の数量分析系科目を開設する。

・社会において生じている事象を高次のレベルで的確に分析し、その事象を解明できる能力を身につけるために現代技術論、ファイナンス、公共経済学、国際経済学、産業組織論、労働経済学等の応用系分野別科目を開設する。

・高次のレベルで分析、解明したことを総合し、的確に表現できる能力と「創造性」を身につけるために演習・特殊研究等を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習等の授業形態に応じて、アクティブラーニングなどを適宜組み合わせて行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

経済学研究科（博士後期課程）

・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、経済学研究科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

カリキュラムは、指導教員が指導する演習と、関連分野の研究科教員が指導する特殊研究等から構成される。

（学位論文提出までのプロセス・指導体制）

演習は、指導教員の指導のもとで行われ、博士論文執筆を目標とする。博士論文執筆にあたっては、公開セミナーを実施し、指導教員以外の教員からの指導も受ける。

